

令和  
3年度

# 橋梁技術発表会 講演会

参加費  
無料定員  
220名申込  
先着順

及び

# 講演会

コロナ対策を考慮して開催いたします。定員変更の可能性あります。  
新型コロナウイルスの感染拡大により中止となる可能性があります。

|      |     |             |   |
|------|-----|-------------|---|
| 技術発表 | 第1部 | 13:00~13:10 | 開会の辞<br>(一社)日本橋梁建設協会 会長 高田 和彦   |
|      |     | 13:10~13:50 | ① 東西水路横断橋(仮称)<br>多軸台車と台船を使用した大ブロック一括架設<br>~架設重量7000tを超える大型地組ブロックの<br>ロールオンと台船架設について~<br>架設小委員会  |
|      |     | 13:50~14:00 | 休憩  |
|      |     | 14:00~14:40 | ② カチプール・メグナ・グムティ第2橋建設工事 工事報告<br>~バンングラデシュ初となる大規模鋼橋架設工事~<br>海外事業委員会  |
|      |     | 14:40~14:50 | 休憩  |
| 特別講演 | 第2部 | 14:50~15:50 | 限界状態設計法に向けた<br>鋼桁構造の一例と大学での学び<br>立命館大学理工学部 環境都市工学科 教授 野阪 克義  |
|      |     | 15:50~16:00 | 閉会の辞<br>橋梁技術発表会 実行委員会 委員長 奥村 恭司   |

日時

10月13日(水)

令和3年

13:00~16:00

会場

大阪府立男女共同参画・  
青少年センター(愛称:ドーンセンター)  
7Fホール 大阪市中央区大手前1-3-49

申し込み

Webサイト <https://www.jasbc.or.jp/>  
受付は令和3年9月13日~10月3日  
※申し込みは、Webサイトからのみです。

連絡先

一般社団法人 日本橋梁建設協会 近畿事務所  
〒550-0005 大阪市西区西本町1-8-2 三晃ビル5階  
TEL.06-6533-3238

継続教育

CPDS認定予定

開催地区

●東京地区:10月1日(金) ●九州地区:11月5日(金)  
●大阪地区:10月13日(水) ●東北地区:11月10日(水)  
●北海道地区:10月29日(金) ●中部地区:11月19日(金)  
(6地区開催ですが、発表テーマは異なります)

資料配布

論文及びPPTのpdfは事前にWebサイトに掲載  
致しますので、必要に応じ出力し持参願います。

【アクセス】



- 京阪「天満橋」駅下車。東口方面の改札から地下通路を通過して1番出口より東へ約350m。
- 地下鉄谷町線「天満橋」駅下車。1番出口より東へ約350m。
- JR東西線「大阪城北詰」駅下車。2番出口より土佐堀通り沿いに西へ約550m。

【来場時のお願い】

- ◎来場時に検温および体調の確認をさせていただきます。
- ◎来場時には、マスクの着用をお願い致します。
- ◎体調不良の場合は、来場を自粛して頂きます様、お願い致します。

## 1 東西水路横断橋(仮称) 多軸台車と台船を使用した大ブロッケー括架設

本橋の架設地点である東西水路は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会での使用が計画されています(論文作成時点)。この幅約200mの水路に支間長約250mの鋼単純ニールセンローゼ橋を大ブロッケー括架設しました。

大ブロッケーは架設地点傍のヤードで地組し、架設作業は多軸台車を用いたヤード移動、台船へのロールオン、水路内移動、台船バラスト調整と潮位を利用した架設作業、架設後の降下作業までを約1週間かけ実施しました。

本発表では大ブロッケー括架設の移動から降下まで一連の作業について報告します。

## 2 カチプール・メグナ・グムティ第2橋建設工事 工事報告

本橋が架設される首都ダッカと第2の都市チッタゴンとの間は Bangladesh の GDP の5割を占める重要な経済回廊です。近年の交通量増加により当路線の各地で慢性的に交通渋滞が多発していたことを背景に、2008年から当局は同路線を2車線/4車線から6車線/8車線とする拡幅工事を進めており、3橋の建設工事はその一環となりました。

3橋は細幅箱桁を主桁とした合成床版を有する連続桁です。全橋送出し工法が採用されており、3橋の内最大橋長となるグムティ第2橋では、橋長1410m全量を両岸から送出す大規模な送出し架設を実施しました。

本発表では、Bangladesh 初となる大型規模鋼橋架設工事から得られた技術的知見や直面した課題について発表し、同国での鋼橋架設工事に活かされる事を目的とします。

### 特別講演会 講演者紹介

立命館大学理工学部 環境都市工学科 教授 **野阪 克義**

#### 講演テーマ

## 限界状態設計法に向けた鋼桁構造の一例と大学での学び

#### 【略歴】

1995年3月 立命館大学 理工学部 卒業  
 1997年3月 立命館大学 理工学研究科(修士課程) 修了  
 2002年3月 ミネソタ大学 大学院(博士後期課程) 修了 Ph.D.  
 2002年4月 立命館大学 理工学部 土木工学科 助手  
 2004年4月 立命館大学 理工学部 都市システム工学科 講師  
 2008年4月 立命館大学 理工学部 都市システム工学科 准教授  
 2016年4月 立命館大学 理工学部 都市システム工学科 教授  
 2018年4月 立命館大学 理工学部 環境都市工学科 教授  
 現在に至る

#### 【専門分野】 構造工学、鋼構造、耐荷力

#### 【講演概要】

現行の道路橋示方書には、「新たな材料や構造の採用が今後増加することを期待して」部分係数設計法・限界状態設計法が導入されている。今回は、鋼材の利用方法のひとつとして以前から提案されているハイブリッド桁についての研究を紹介するとともに、鋼橋設計とくに限界状態との関わりについて述べる。また、大学での学びと鋼橋設計(鋼桁設計)との関わりについても私見を述べてみたい。

令和3年度

橋梁術発表会

大阪地区

10月13日(水)

参加申込方法▶



一般社団法人 **日本橋梁建設協会**  
Japan Bridge Association

ホームページよりお申込み下さい。

<https://www.jasbc.or.jp/>

「技術発表会」  
の申し込みはこちら。